

一般質問発言通告書

発言順位 11 番

下記事項について質問をしたいので、会議規則第51条第1項の規定により通告します。

令和7年9月5日

三島市議会議長 堀江 和雄 様

三島市議会議員 10番 河野 月江

質問事項1 誰もが認め合い、安心・快適に暮らし、共生・活躍できる多文化共生のまちへ

具体的な内容 全国の外国人入国者数、在留外国人数は昨年も過去最高を更新した。当市でも多くの外国人市民が地域の様々な産業を支え、子どもたちは保育園・幼稚園・学校にも通い、地域の中で暮らしている。市は第5次総合計画の施策に多文化共生を掲げ、国際交流室を中心に様々な取り組みを行ってきた。昨今、国政選挙やSNS等を通じ、実態のない「外国人への「優遇」「特権」」をふりまく排外的な言説が流布され、その影響が拡がっている一方、こうした事態と風潮に心を痛めている市民もいる。今回改めて、当市における現状、市の基本姿勢との間の取り組みを確認しつつ、「三島市多文化共生まちづくりプラン」(仮称)の策定に向け、さらに一步踏み込んだ取り組みを求め、以下伺う。

- 1 当市における外国人（観光客・在留外国人）に係る現況と推移、国籍・在留資格の状況
- 2 外国人に関する相談（外国人からの相談・外国人についての相談）窓口の状況（件数の推移と主な相談内容）
- 3 当市の生活保護受給者における外国人市民の比率（平成26年度末・令和6年度末）
- 4 当市の国民健康保険被保険者における外国人市民の比率と年齢構成および医療給付率
- 5 三島警察署管内における外国人による刑法犯検挙数推移（平成16・26年度、令和6年度）
- 6 「外国人優遇」への見解と多文化共生への基本姿勢
- 7 施策の推進状況（情報提供の充実、多文化共生意識の醸成、人材の育成）と課題
- 8 「三島市多文化共生まちづくりプラン」(仮称)の必要性と今後の取り組みについて

質問事項2 再開発事業でまたも補助金負担の引上げか—「トロイの木馬」的やり口を問う—

具体的な内容 現在工事が進められている三島駅南口東街区再開発事業について、8月末、担当課より議会各会派に対し進捗状況の説明があり、その中で市の負担する補助金が新たに約1億1千万円増額する可能性が示唆された。これまでの経過や市の議会答弁、市民説明の内容をもとに判断するならば、今回行おうとしている補助金引上げは、「油断・信用を逆手に取る裏切りや策略」を象徴する、いわゆる「トロイの木馬」的やり口である。公文書の存在を確認したが、そもそも補助金対象事業費に上限を設けることについて、対再開発組合あるいは市内、いつどのように合意形成したのかについての記録が存在しない。この間費用便益比の取扱いそのものが曖昧のうちに推移してきたもとで、現在示されている費用便益比は、もはや正確性・信用性・公認性を失っている。「説明責任」「合意形成の過程」「補助金支出の根拠」—これら3つが欠落していることから、新たな補助金支出は根拠を失っている。そのことを以下の質問で明らかにする。

- 1 令和5年9月22日の弓場議員、令和5年12月8日の河野による一般質問への答弁はどういう意味か。
- 2 工事費は従来計画の額からどれだけ上がっていくか。
- 3 従来計画と今回の容積割り増し計画それぞれにおいて、市と組合が、補助金上限について協議・調整をおこなった際の議事録はあるか。
- 4 従来計画と今回の容積割り増し計画それぞれにおいて、再開発事業+定期借地あわせた費用便益比を分析するための基礎データ（公文書）はあるか。
- 5 定借区域E棟の「山車」について。